

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校 岡山情報ビジネス学院	昭和61年7月26日	学院長 三村 光	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話)086-224-2336																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 三友学園	昭和61年7月26日	理事長 野津 基弘	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話)086-224-2336																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	情報システム学科	平成7年1月23日 文部科学省告示第22号	-																							
学科の目的	日々進化するIT業界に必要な専門知識やプログラミングを基礎から学習。さらにチームで協力し、システムの開発やコンテストに参加することで応用力を伸ばす。問題を解決する力を身につけることで、市区戦力として活躍できる人材を育成する。																										
認定年月日	平成27年2月17日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1,711	957	1,319	1,357	0	0																				
3633時間																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
80人	140人	0人	5人	3人	8人																						
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～翌年3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価はS、A、B、C、Dの4段階 科目終了時に試験、レポート等で評価																							
長期休み	■夏季休業日:8月9日～8月28日 ■冬季休業日:12月19日～翌年1月12日 ■春季休業日:2月6日～3月13日		卒業・進級条件	①必修の全科目及び選択必修で選択した科目の成績がC評価以上 ②すべての授業の出席率90%以上 ③サーティファイ 情報処理検定3級、 サーティファイ C言語検定3級、 サーティファイ Java検定3級のうち1つに合格 上記条件を全て満たした学生に対して卒業を認定する																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、保護者面談、家庭訪問等		課外活動	■課外活動の種類 新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭、東京研修  ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) (株)ミライト、(株)湯山製作所、TISソリューションリンク(株)、ピープルソフトウェア(株)、総合警備保障(株)、(株)ハーバー・ソフトウェア、トリツ機工(株)、(株)テクノプロ、(株)ダイレクトウェイヴ、(株)システムエンタープライズ、エムテック(株)、(株)SMSデータテック、(株)ソフィア、(株)アルク、(株)プロビズモ、ヒルタ工業(株)、(株)オーユーシステム、(株)マーズ、(株)ジェイテック、アイイーファイヴ(株)、サービス&セキュリティ(株)、(株)ティファナ・ドットコム、(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)リブゲート、(株)アスパーク、日本データスキル(株)、(株)シンカテクノロジー、(株)オカカン、フルタニ産業(株)、神戸ウェーブ(株)、ビートテック(株)、三菱電機(株)、日本NCRサービス(株)、(株)中原三法堂、(株)日本テクノス、(株)ワールドインテック 他 ■就職指導内容 担任教師とキャリアサポート室が連携し学生の進路選択のサポートを行う。併せて就職対策講座により教養・面接対策等を行う。		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																							
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>情報処理技術者能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>C言語プログラミング能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>60人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>38人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	23人	13人	情報処理技術者能力認定試験2級	③	30人	16人	C言語プログラミング能力認定試験2級	③	60人	29人	Javaプログラミング能力認定試験2級	③	38人	15人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
基本情報技術者試験	③	23人	13人																								
情報処理技術者能力認定試験2級	③	30人	16人																								
C言語プログラミング能力認定試験2級	③	60人	29人																								
Javaプログラミング能力認定試験2級	③	38人	15人																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
中途退学の現状	■中途退学者 6名 令和3年4月1日時点において、在学者127名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者121名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更のため		■中退率 4.7%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ・OIC特別奨学金制度(本校入学者を対象に実施) ・後期授業料免除制度(本校入学後、所定の条件を満たす者を対象に実施) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf																										
当該学科のホームページURL	URL <a href="https://oic-ok.ac.jp/course/information_system/">https://oic-ok.ac.jp/course/information_system/</a>																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、ユーザーが求めるシステムを構築するために、高い技術力と豊かなコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指す。そのために、システム化に向けた動向やシステム開発技術についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、システム業界を中心に、ソフトウェア開発における実状と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

IT技術者育成のために、システム業界関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
楠戸 國正	一般社団法人システムエンジニアリング岡山 専務理事・事務局長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
川口 善之	株式会社ジェイテック 技術部部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
塚田 亮一	アシアル株式会社 取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
木村 収	株式会社湯山製作所 開発部係長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
伊藤 宏一郎	専門学校 岡山情報ビジネス学院 教務課長補佐	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	
妹尾 潤	専門学校 岡山情報ビジネス学院 情報システム学科 学科長代理	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(例年の開催時期は、9月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年9月22日 16:00～17:30

第2回 令和4年1月20日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

<委員会意見より現在実施中項目>

アイデア創出の授業はぜひ取り組むべき。しかし、経験が無い中で学習をしてもアイデアにつながらないことが多い。また、制作物が問題解決につながったのかフィードバックを得ることも出来ない。自分の目に見える範囲で課題を見つけること、本当に課題を解決することが出来たのかフィードバックを得ることができることを意識しないと、机上の空論になってしまう。

<委員会意見より具体的内容検討中項目>

人間性教育を目的として、全ての専攻にて企業様や自治体様との連携を検討していきたい。制作物のレビューや企業様から頂いた課題を制作するような展開を検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT業界で即戦力となる技術者育成のため、ソフトウェア開発企業を中心とした企業と連携し、現場における業務を体験し今後のシステム開発技術者としてのスキル向上を目指す。また、連携企業様についてはソフトウェア開発についての仕事全般が体験でき、システムエンジニア、プログラマーとして活躍している方からシステム開発に対する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

主に担任教員が実習内容の詳細について連携企業と受入の確認と調整を行う。実習期間中は学科教員が各連携企業を訪問し、学生の状況を確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習終了後には、実習担当者による学生の学修成果の評価と、実習日誌などをふまえ、担任教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリア 実習	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	株式会社ソフィア ソルクリエイト株式会社 株式会社ティファナ・ドットコム 株式会社プロビズモ 株式会社はれコーポレーション 株式会社テクノデジタル トリツ機工株式会社 株式会社アルク 等 全34社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・主催: 株式会社 サーティファイ
- ・日程: 令和3年8月20日(金)
- ・参加者: 妹尾 潤
- ・研修名: 「実践的なプログラミング教育の考察」

プログラミング教育を専門学校で行っていく上で、個人の技量の差による進捗状況の乖離を小さくするために、早期に発見し、ケア

していくための基準や特徴、傾向に事例を交えて解説していただいた。学生が陥りやすい「探索的プログラミング」の見分

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・主催: デジタルハリウッド株式会社
- ・日程: 令和4年1月20日
- ・参加者: 妹尾 潤、藤原 直樹
- ・研修名: アダプティブ・ラーニング×ルーブリック評価に基づく「学習成果の可視化」の実践と効果

デジタルハリウッド株式会社はマルチメディアコンテンツ系予備校および大学を運営する企業である。

昨今急速に進んだオンライン教育の知識と活用、および学習成果の可視化について、その方法論と効果測定手法について解説いただいた。また、オンライン授業導入による成長の実践事例について紹介いただいた。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・主催: NPO法人/オープンテクノロジー技術者認定機関 LPI-Japan
- ・日程: 令和4年度7月12日
- ・参加者: 妹尾 潤
- ・研修名: HTML5(CSS3) レベル1試験 技術解説無料セミナー

NPO法人/オープンテクノロジー技術者認定機関 LPI-Japanは、日本でのLinuxの技術力認定試験の普及とITプロフェッショナルの育成のため2000年7月に設立され、現在は対象を広げOSSのデータベースソフトウェア、クラウドソフトウェアであるCloudStackやOpenStack、更にはHTML5のプロフェッショナルのための認定試験を実施するNPO法人である。本研修では、HTML5プロフェッショナル認定資格の出題範囲の主題ごとに技術解説を行っていくセミナーである。本団体は本学科の教育課程編成委員に加盟しており、セミナー等に参加し資格の取得や教師のレベルアップを図っている。

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 主催: 株式会社 進研アド
- 日程: 令和4年8月下旬～9月予定
- 参加者: 妹尾 潤、藤原 直樹、田中 優平、赤木 伸
- 研修名: 「基礎力リサーチ」フィードバック教師研修

株式会社 進研アドは、入学者に対して、入学時及び進級時に学びの定着化を図ったり、退学予防に役立てたりすることを目的とした「基礎力リサーチ」を提供していただき、本校と連携をしている。株式会社 進研アドが、「基礎力リサーチ」結果をもとにさまざまな角度から分析した結果を各学科の担任にフィードバックを行い、今後の学生指導に役立てるための研修である。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の順守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	現在はありません

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
守井 照久	税理士法人創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 VX事業部 開発部 部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	卒業生・ 企業等委員
石崎 公生	株式会社アドボックスフォトグラフィ 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	PTA
山本 涉	医療法人和香会 倉敷スイートホスピタル 運営企画室室長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
豊田 東	岡山国際ホテル 総支配人	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
佐藤 新之助	株式会社イトン イートンちどり保育園 取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 総務戦略本部 本部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
北牧 涼輔	株式会社アールアールジェイ 岡山支店 支店長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
竹井 一雄	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日 (2年)	企業等 委員
畑 嘉昭	株式会社 トスコ 常務取締役	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日 (2年)	企業等 委員
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<https://www.oic-ok.ac.jp>

公表時期: 令和4年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2) 各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3) 教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL:<https://www.oic-ok.ac.jp>

(工業専門課程 情報システム学科) 令和4年度 1年生																		
	分類					授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修1	選択必修2	選択必修3	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○					コンピュータ概論Ⅰ	テクノロジー分野（基礎分野）に関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習する。	1前期	40	2	○	△		○		○		
2	○					コンピュータ概論Ⅱ	テクノロジー分野（応用分野）に関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習する。	1前期	47	2	○	△		○		○		
3	○					コンピュータ概論Ⅲ	マネジメント・ストラテジに関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習する。	1前期	49	2	○	△		○		○		
4	○					プログラミングⅠ	JAVA SE範囲のオブジェクト指向プログラミングの基礎知識を学習する。	1前期	67	4	○	△		○		○		
5	○					アルゴリズム概論Ⅰ	プログラムの処理手順の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午後分野合格レベルの学習する。	1前期	65	4	○	△		○		○		
6	○					ビジネスアプリケーション演習	Excelの基本操作と書類作成を学ぶ	1前期	32	2	△		○	○		○		
7	○					ペン字	硬筆検定3級合格レベルの演習 手書き用履歴書作成のため。	1前期	15	1		○		○		○		
8	○					ビジネス実務Ⅰ	新入社員として必要なマナーの学習。 就職活動における立居振舞、面接指導。	1通年	183	4	○	△		○		○		
9	○					プログラミングⅡ	JAVA SE範囲のオブジェクト指向プログラミングを演習を通して学習する。	1後期	17	1	○	△		○		○		
10	○					情報リテラシー	演習を通じて情報技術の基礎知識について学習する。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。	1後期	22	1	△	○		○		○		
11	○					プレゼンテーション技法	PowerPointの使い方の学習と演習。 PowerPointを利用し、効果的な話し方の学習と演習。	1後期	16	1	△	○		○		○		
12	○					キャリア実習	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	1後期	80	2			○		○	○		○
13		○				情報処理技術者Ⅰ	経済産業省情報処理技術者レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	1後期	93	3	△	○		○		○		
14		○				プログラミングⅢ	Webページ作成の基本となるHTML、CSSの基礎知識を演習を通じて知識を深める	1後期	51	3	△	○		○		○		

(工業専門課程 情報システム学科) 令和4年度 1年生															
分類	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
必修	選択必修1	選択必修2	選択必修3	自由選択											
15	○				HTML・CSS	Webページ作成の基本となるHTML、CSSの基礎知識を演習を通じて学習する。	1後期	37	2	△	○		○	○	
16	○				システム開発 I	ウォーターフォールモデルで例題をもとに、基本設計から外部設計まで設計書の考え方、書き方を演習。	1後期	49	3	△	○		○	○	
17		○			プログラミング実習 I	Java言語を用いてのプログラミングを実習を通して学習する	1後期	37	1	△		○	○	○	
18		○			UI・UX	システム開発における、画面構成やデザインについて学習する。	1後期	32	2	○	△		○	○	
19		○			Webアプリケーション演習	ハイブリッドアプリケーション開発の基礎となるHTML5、CSS3、Javascriptを使用したプログラミング実習を行う。	1後期	64	4	△	○		○	○	
20		○			クラウド開発演習	クラウド環境を用いたシステム開発について演習を通して学習する。	1後期	97	4	△	○		○	○	
21			○		マイコン実習	組込みシステムに必要な知識と、周辺機器を利用した実習。	1後期	64	2	△		○	○	○	
22			○		UML	オブジェクト指向開発における設計書の書き方の学習と演習。	1後期	49	2	○	△		○	○	
23			○		PLC基礎	コンピュータの制御に必要な知識の学習と演習。	1後期	62	4	○	△		○	○	
24			○		Linux I	LPICレベル1合格レベルの学習。Linuで作業を行ううえで必要なxコマンドの学習と実習。	1後期	55	3	△		○	○	○	
合計							16科目	863時間(37単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週



(工業専門課程 情報システム学科) 令和4年度 2年生																		
No.	分類					授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修1	選択必修2	選択必修3	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○					ビジネス実務Ⅱ	実社会で求められるビジネスマナーについての学習。新聞の読み方、業界の動き等を学習。	2 通年	142	4	○	△		○		○		
2	○					プレゼンテーション演習	企画したシステムを演習を通じ、効果的なプレゼンテーション力を身につける。	2 後期	20	1	△	○		○		○		
3	○					システムアイデア	システム開発のアイデア創出、提案資料作成、発表を演習を通して学ぶ	2 前期	30	2	△	○		○		○		
4	○					親学	親としてすべきことを学び、さらに人としての成長を目指し、人間力を高めるライフデザインを学ぶ。	2 前期	15	1	△	○		○		○		
5		○				情報処理技術者Ⅱ	経済産業省情報処理技術者試験に向けた学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2 前期	78	4	△	○		○		○		
6		○				AI概論	AIに関する基礎知識を学習し、基本概念、条件に応じた応用方法を学習する。	2 前期	34	2	○			○		○		
7		○				Visual Basic. Net実習Ⅱ	ADO.NETを利用したデータベースと連携したプログラム実習。ACSESS、SQLサーバを利用。	2 前期	61	2	△		○	○		○		
8		○				JAVA実習	Javaプログラミングの基礎知識の学習とプログラミング実習。またEclipseを利用しAndroidアプリの制作。	2 前期	84	2	△		○	○			○	
9		○				システム開発Ⅱ	オブジェクト指向によるシステム開発の設計手法を学習。	2 前期	55	3	△	○		○			○	
10		○				システム開発Ⅲ	ソフトウェア詳細設計以降の工程を学習し、システム開発の流れ、考え方を学習。	2 前期	52	3	△	○		○			○	
11		○				情報処理技術者Ⅲ	経済産業省情報処理技術者試験に向けた学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2 後期	93	4	△	○		○		○		
12		○				卒業研究	2年間の集大成として、グループでシステム企画、設計、開発、テストまで行う。	2 後期	169	4	△	○		○		○		
13			○			システム開発特講	開発案の創出から開発を通してを設計・開発～本番運用まで総合的に学習する	2 前期	78	2	△		○	○		○		
14			○			テスト技法	システムのテスト手法について理解し、状況に応じたテストケースの作成、実施方法を学習する。	2 前期	45	3	○	△		○			○	
15			○			Android実習Ⅰ	AndroidStudioの基本的な使い方を学習し、Androidアプリの技術を実習を通して学習する。	2 前期	48	1	△		○	○		○		
16			○			JAVA実習Ⅱ	Javaプログラミングの応用知識の学習とプログラミング実習。	2 前期	73	2	△		○	○			○	

(工業専門課程 情報システム学科) 令和4年度 2年生																		
	分類					授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修1	選択必修2	選択必修3	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
17			○			モバイルアプリケーション演習	携帯端末、スマートフォンで動作可能なアプリケーションの作成技術を演習を通して学習する。	2前期	60	4	△	○		○	○			
18			○			モバイルアプリケーション制作	外部プログラミングコンテストに出品することを目標とし、アプリケーション作品を制作。	2前期	60	4	△	○		○	○			
19			○			Android実習Ⅱ	AndroidStudioのより深い使い方を学習し、Androidアプリの制作。	2後期	40	1	△		○	○		○		
20			○			JAVA実習Ⅲ	Javaプログラミングでより実務に近いレベルの学習とプログラミング実習。	2後期	90	3	△		○	○		○		
21			○			卒業研究	2年間の集大成として、グループでシステム企画、設計、開発、テストまで行う。	2後期	132	4		△	○	○		○		
22				○		ロボット開発技術特講	機械、ロボットを活用した開発技術を総合的に学習する。	2前期	78	2	△		○	○		○		
23				○		LINUXⅡ	Linuで作業を行ううえで必要なxコマンドの学習と環境の構築。	2前期	45	3	△	○		○		○		
24				○		ロボコンⅠ	ETロボコン入賞を目指し、組込み系エンジニアに必要な基本的な技術の学習と実習。	2前期	54	1	△		○	○		○		
25				○		CAD演習	製品のデザイン・設計に関わるスキルの学習と実習。	2前期	33	2	△	○		○		○		
26				○		通信ネットワーク	通信ネットワークの基礎を学習。	2前期	35	2	○	△		○		○		
27				○		JAVA基礎	JAVA言語をベースとしてプログラミングの基本文法、基礎知識を学習。	2前期	53	3	△		○	○		○		
28				○		PLC実習	制御にPLCのプログラムの学習と実習。	2通年	63	2	△		○	○		○		
29				○		ロボコンⅡ	ETロボコン入賞を目指し、組込み系エンジニアに必要な基本的な技術の学習と実習。	2後期	94	3		△	○	○		○		
30				○		企業情報処理	企業の中で情報処理がどのような部分で活用されているかの知識を学習する。	2後期	30	2	○	△		○		○		
31				○		卒業研究	2年間の集大成として、グループでシステム企画、設計、作成まで行う。また、必要なPC環境の構築。	2後期	141	4	△		○	○		○		
32		○	○	○		医療事務	医療機関の役割を理解し、簡単な保険請求を学ぶ	2後期	15	1	△	○		○		○		
33		○	○	○		ビジネス実務法務	ビジネスに関連する法律の学習を通じて、社会の仕組みや業務におけるリスクを学ぶ	2後期	15	1	○			○		○		

(工業専門課程 情報システム学科) 令和4年度 2年生																		
分類	必修	選択必修1	選択必修2	選択必修3	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
											講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
34		○	○	○		デザイン入門	書類やスライドなど、どの業界に出ても必要となるデータ作成上で必要となるデザインについての基礎的知識を身につけ、実践する	2後期	15	1	△	○		○		○		
35		○	○	○		HP動画	HPや動画を制作するための基礎的な知識やセンスを身につける。	2後期	15	1	△	○		○		○		
36		○	○	○		音楽	日本に伝わる四季折々の歌や世界に広がる歌を歌いながら楽器や身体、絵に描く等、表現力を高め感性を豊かにする。	2後期	15	1	△	○		○			○	
37		○	○	○		RPA実習	作業自動化ツールであるRPA(Robot Process Automation)の構築を題材に、プログラムの思考力を養う	2後期	15	1	△	○		○		○		
38		○	○	○		Excel・データ分析	Excelを使ったデータの活用、集計、分析方法の基礎知識について学ぶ	2後期	15	1	△	○		○		○		
39		○	○	○		一般知能	数的推理・判断推理・資料解釈を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける	2後期	15	1	○			○		○		
40		○	○	○		健康管理	人体の仕組みと代表的な病気の予防について理解し、健康管理の基礎を学ぶ。	2後期	15	1	○			○		○		
41		○	○	○		ロジカルシンキング	グループワークやディスカッションを通じて、論理的思考に用いられるフレームワーク(考え方)を学ぶ。	2後期	15	1	△	○		○		○		
42		○	○	○		ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付ける。	2後期	15	1	○	△		○			○	
43		○	○	○		ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形(行書体も含む)を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2後期	15	1	△	○		○			○	
44		○	○	○		応用文章技能	文章を書くための素材を集めるポイントや文章の構成などを講義するとともに、毎回、テーマに即した文章を書くこと(添削あり)を通じて、実践的な文章技能の習得を目指す。	2後期	15	1		○		○		○		
45		○	○	○		フラワーアレンジメント	ブーケ、ブートニア、ヘッドフラワー、会場装花を製作する。	2後期	15	1	△	○		○			○	
46		○	○	○		世界事情	グローバル化の時代、将来国内外問わず、外国人とともに仕事することを念頭に、テーマ別国際事情の講義とグループワークやディスカッションを通して、国際的視野を身につける。	2後期	15	1		○		○		○		
合計								13科目	848時間(33単位)									
総科目								29科目	総時間 1711時間									

(工業専門課程 情報システム学科) 令和4年度 2年生																	
分類					授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修1	選択必修2	選択必修3	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
①必修の全科目及び選択必修で選択した科目の成績がC評価以上 ②すべての授業の出席率90%以上 ③サーティファイ 情報処理検定3級、 サーティファイ C言語検定3級、 サーティファイ Java検定3級のうち1つに合格 上記条件を全て満たした学生に対して卒業を認定する (留意事項)									1学年の学期区分						2期		
									1学期の授業期間						16週		

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。